

アドバイザーボード委員への意見聴取（第2回）結果と対応

未来のために — 重点政策

【根本委員】

- ・エンタメ業界にいたのでそちらの考えを書かせていただく。私が所属するスターダスト・レビューでは行田産業文化会館で何度も公演しているが、会館はかなり古く、機材の搬入搬出のやりやすさ、さらに楽屋や付帯設備も含め、けっして使いやすいホールではない。長年にわたり全国の会館を見てきたが、お世辞にも一流には程遠い状態である。会館を立て直すには多額の費用が必要だが、まずはリニューアルして様々なミュージシャンが来やすくすることは急務と思う。
- ・先日長野県岡谷市で公演した時のエピソードを紹介する。公演には50歳以上の方もかなりいるので、ステージから冗談半分で「血圧の薬を飲んでる人」を毎回聞くが、岡谷市の時はその数が圧倒的に少なかった。後から聞いた話では、長野県全体で高齢者の減塩運動をしているらしく、その効果もあったのでは、とのこと。健康については、啓蒙することでかなり効果がでると思う。
- ・数年前に埼玉県歯科医師会から連絡を頂き、子どもたちの歯磨きソング「歯を磨こう」という曲も作ったこともある。エンタメを使って健康を促すやり方。そんなアイディアももっと考えていきたい。

→ 産業文化会館を含め、市内には高度経済成長期に建設され老朽化した公共施設も多いことから、計画的な更新に取り組んでまいります。また、高齢社会において、市民の健康づくりを促す取組みは大変重要と考えています。健康・保健分野に関する施策については、実施計画に位置付け、実施してまいります。

【長谷川委員】

- ・「英語のできる行田っ子」の表現は少しひっかかる。「では、そういう人が働ける所は行田にあるの？」とすぐに言われそうである。むしろ、「多様性を尊重できるグローバルなセンスを持った子供」を育てる、というような表現の方がいいのではないか。英語を教える外国人教師だけでなく、地域の人材が部活やものづくり教室の指導をするようなシステムも拡大していけないか。
- ・重点政策2に関して、行田市の強みは足袋づくりをベースとしてその後発達した縫製系産業などのものづくりの歴史にあると思う。教育の中でもものづくりに意欲のある人材を育てることも大事。進修館高校やものづくり大学の存在も企業誘致のインセンティブになるのではないか。
- ・重点政策3は行田市の弱いところで、この対策は重要なので、きちんと書いておくことには賛成。ただ、実現には時間がかかることも事実だと思う。
- ・社会増を増やしていくためには「住んでみたい」の前提として「訪れてみたい」と思ってもらえないといけないので、観光対策は力を入れた方がいい。「田んぼアート」は全国版の放送でも流れるが、こうしたイベントなどが春・夏・秋・冬といくつもあるように仕掛けていけないか。こうした取組みを進め、交通インフラの整備に向けた環境づくりを図ることも重要。

→ ご指摘のように、英語ができるだけでなく、グローバルな人材を育成することは重要であると考えます。そうした人材が市内で就職できるよう、多様な企業の誘致や起業支援に努めます。また、観光振興は「行田市を知ってもらおう」きっかけとしても重要と考えます。観光に関する個別の取組みについては、実施計画で位置付けを予定しています。

【関根委員】

- ・重点政策1～3について賛成する。それを前提に、感想と今後の課題と思われるものを述べる。
- ・「重点政策1 子育て支援の強化と教育の充実」について、子育て支援や魅力的な子育て環境の整備を先駆けて進めるのは当然だが、他市も同様の施策を取ってくるので、優位性を強調できる期間は短いと考える。一方で、英語教育や郷土学習は他市との差別化という点からも重要である。キーワードは「徹底」で、例えば英語学習と郷土学習を徹底し、ミックスし、市内の中学生が皆、古墳や足袋、について英語で外国人旅行者にガイドできるようになれば、若い親世代も「住むことによるメリット」を感じてくれると考える。
- ・重点政策2 開発の促進と雇用の創出について、市外への交通手段が不便なら、市内で生活が完結できるのが本当は一番良い。複合商業施設ができれば生活、雇用が一定程度解決するので、トライすることをあきらめてはいけないと考える。一方、恵まれた農業環境を活かせるスマート農業や第6次産業化支援などは賛成。この分野が進めば、就農者と一般市民が併用する新しいスタイルの市内モビリティが生まれるなど、思わぬ副産物が生まれる可能性があると思う。
- ・重点政策3 交通インフラの整備について、高速道路、新橋、AIオンデマンド交通など、全て賛成だが、時間はかかると思う。重点政策1や2と合わせて少しずつでも着実に実行していくことが大切。

→ 重点政策1に対するご指摘について、子育て支援策のみならず、小中学校での特色ある教育などにより、子育て世代の市内定住や移住を促進してまいります。重点政策2に対するご指摘について、今後は稼げる農業を目指して、農業法人化や6次産業化を促進するとともに、スマート農業導入支援などにより若い世代が魅力的に感じる農業にしていきたいと考えています。